


## 審査委員会報告書

(課程博士用)

報告番号	甲 第 1063号	授与年月日	平成27年3月10日
学位	博士(看護学)		
氏名	生年月日	昭和43年8月17日生	
	氏名(国籍)	和田 美也子	
論文題目	初期全身治療を受ける中年期乳がん患者の自己調整学習行動尺度の開発		
主論文冊数	1 冊		
審査委員会委員	( 氏 名 ) 主査 北里大学 教授 出口 禎子 北里大学 教授 矢那瀬 信雄 北里大学 教授 松谷 伸二 日本赤十字看護大学教授 本庄 恵子		
論文内容要旨 審査結果の要旨 試験結果の要旨	別紙 1 別紙 2 別紙 3		
審査委員会の意見	審査の結果、博士(看護学)の学位を授与できると認める。		

- 【注】 1. 報告番号、学位記番号、授与年月日は、研究科委員会の審査後に研究科において記入する。
2. 国籍は、外国人のみ記入する。

## 審査結果の要旨

審査対象者 和田 美也子

申請者は、副論文「術前化学療法を受ける乳がん患者の治療継続プロセスの探究(平成 23 年誌上発表)」とする修正版グラウンデッドセオリーアプローチを用いた質的研究の結果を基盤とした尺度開発の本博士論文に取り組んだ。申請者は修士論文(平成 10 年度)においても乳がん患者のクオリティ・オブ・ライフを量的に調査しており、ここ約 10 年間一貫して乳がん患者を対象とした量的・質的研究に取り組んできており、これまでの地道な歩みが本論文へと繋がったものと考えられる。

本論文は初期全身治療を受ける中年期乳がん患者の自己調整学習行動尺度の開発である。主に外来で初期全身治療を受ける乳がん患者は昨今増加しているが看護師の支援を受ける機会が少ない。このような患者に焦点を当てた本論文は新規性があり価値が高いと評価された。尺度開発にあたってはこれまで教育の分野で取り扱われてきた自己調整学習行動に着目し、患者を学習者としてとらえ、患者が主体的に学んでいくことをとらえる尺度開発をしたという挑戦も評価された。また、乳がんの初期全身治療を受ける患者にとっての自己調整学習行動とは何かという新たな知見を提供できた研究であると評価された。5 下位尺度 23 項目から構成された本尺度は、今後外来で治療を受ける乳がん患者を援助する看護師が実践的に使えるようにさらに吟味する必要はあるが臨床適用可能性が高いと予測できる。

以上から本論文はクリティカルケア看護領域の、とりわけ周手術期看護において新たな知見を提供する論文として高い価値を持つことが評価された。なお、自己調整学習行動理論に関する先行研究が取り扱っている集団の特性を明確にしたうえで本論文の対象となった集団特性を考察する点は今後の研究課題として残された。

学位審査委員会では、看護学研究の発展に寄与し、クリティカルケア看護学の実践の向上に意義を有することを高く評価し、本論文を博士(看護学)の学位授与に値するものとして認める。

[別紙 3]

## 試験結果の要旨

審査対象者 和田 美也子

上記の論文提出者に面接し、論文内容および関連事項について試問をおこなった結果、合格と判定した。

よって、博士（看護学）の学位を受けるに十分な能力を有すると認めた。